

# 和倉温泉まちなか賑わい再生と 景観づくり

## 1 社会資本の概要

和倉温泉は、古くから能登半島最大の観光・宿泊拠点として栄えてきましたが、近年の旅行ニーズの多様化などにより、観光客の入込み客数は平成3年の151万人をピークに減少しており、かつての活気が失われつつありました。温泉街には、核となる観光の拠点施設がなく、安全な歩道空間や公園などの休憩施設も乏しいという課題がありました。こうし



まちなか観光の拠点となる観光交流センター「総湯館」

た中、平成20年度に着手した環境整備事業と同時に「和倉温泉街にぎわい再生協議会」（現在は「七尾市和倉校区地域づくり協議会 おもてなし委員会」）を設立し、協議会の意見を反映させながら、まち歩きを堪能できる環境と地域固有の自然や住民とのふれあいを楽しめる温泉街づくりに取り組んでいます。



歩道の拡幅と無電柱化で安全な歩行環境を整備

## 2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

ハード整備については、月1回開催する協議会で情報を共有し、議論を反映させながら実施しました。安心と快適性を実感できる、まちなか道路空間をつくるため、石張り・カラー舗装、案内サインや街路灯などの歩道整備と無電柱化を行いました。また、核となる観光交流センター「総湯館」や公園の再整備、マリンスポーツ施設といった新たな拠点も整備しています。

ほかにも、地域の取り組みとして、花と緑、まち



協議会による歩道整備のデザイン検討

なかや沿道をフラッグで装う「おもてなし活動」を行うなど、地域のぬくもりが伝わる観光地づくりに努めました。

また、和倉温泉らしい格式と温泉情緒ある雰囲気を出すための「景観協定」に約22haという広範囲の住民から賛同を得て、景観法第81条に基づく「景観協定」を北陸で最初に締結し、平成26年4月より運用を開始しています。



撤去した電柱広告を集約した集合看板



石川県七尾市  
七尾市和倉校区地域づくり協議会 / 七尾市

3 活動の成果や波及効果等

まち歩きを促す取り組みや観光拠点整備により、まち歩きをする人（七福神巡りをする人）は平成18年の約2,000人から平成24年には約9,500人と約5倍に増加、「総湯」の入り込みは平成18年の約20万人から平成24年には約24万8千人と約5万人増加しました。

また、景観協定による建物の立替や改善が実施されており、地区の特色に合った景観が形成されつつあります。



「総湯館」前の広場でイベントも開催



情緒ある景観を演出する建物外観

喜びの声



受賞者

七尾市和倉校区  
地域づくり協議会  
会長 小田 孝信

コメント

今回の受賞は、今後の地域活動への励みとなり、とても喜ばしく思っております。協議会では散策しながらお湯が感じられるまち並みが必要であると考え共同浴場「総湯」を中心としたまちづくりを計画しました。今後も和倉温泉へ二度、三度と足を運んでいただけるよう、地域一丸でおもてなしの向上に努めてまいります。

活動内容

花と緑のおもてなし、観光イベントなど

活動の経緯

- 平成20年 和倉温泉街にぎわい再生協議会を設立
- 平成22年 七尾市和倉地区景観協定運営委員会を設立

手づくり郷土賞について

公開審査会について

講評

大賞部門

一般部門

資料集

所在地

石川県七尾市和倉町地先

活動主体及び連絡先

七尾市和倉校区地域づくり協議会  
(0767-53-8469)

対象となる社会資本

和倉温泉地区  
(観光交流センター、道路、公園、緑地、広場、照明施設、マリンスポーツ施設)  
※管理者：七尾市

